



## 平成24年度総会・懇親会のご案内

総会は5月26日(土)、懇親会は8月25日(土)に開催！

佐賀大学楠葉同窓会の総会・懇親会を下記のとおり開催します。

昨年から、より多くの方に出席していただくために総会と懇親会を別の日時としました。その結果、昨年の懇親会は若い世代の出席者が増え、世代を超えた交流が活発に行われ、例年以上に活気のある集いとなりました。

今年の懇親会も趣向を凝らした楽しい内容とする予定ですので、多数の同窓生の参加をお待ちしています。

記

### 【総会】

- ・日時場所 平成24年5月26日(土)4時～  
佐賀ワシントンホテルプラザ11F  
「銀堅八丁」  
佐賀市駅前中央1丁目164番地  
TEL 0952-25-1111
- ・参加者 役員、代議員(会則11条)

### 【懇親会】

- ・日時場所 平成24年8月25日(土)6時～  
グランデはがくれ(旧はがくれ荘)  
佐賀市天神2丁目1番36号  
TEL 0952-25-2212
- ・参加者 楠葉会同窓生全員を対象

今年の懇親会は経済学部59年入学生を中心に実行委員会が発足する予定ですので、特に同年代の方は多数参加し懐かしい話を楽しんでいただきたいと思います！



# 卒業生を 迎えての キャリアデザイン



会長 石丸 新氏  
(文理・法 40入)

キャリアデザイン講座の講師を依頼され、この世に生を受けてから学生時代や大学卒業後の事を思い出しながら走馬灯の様に色々な事が頭の中を巡った。浪人した時、就職して2年で退社した時、税理士試験になかなか合格しなかった時、大病をした時等大変な時期もあったけれど、今は幸せだなと自分の半生を振り返った。後輩達に語りかけたのは

1. 出会いについて。 その出会いが自分の一生を変えるかもしれないと考えて大切にしたいという事。
2. 学生時代は、心を磨いてほしいという事。教養をしっかり身に付けてほしい。
3. 自分がしたい事を早く見つける事。 その為には早く懸命に取り組む事。(遠回りした反省を込めて)
4. 物の見方には裏表があるので、相手の話をよく聞き、相手がなぜその様に考えるかを客観的に理解する能力を身に付けてほしい事。
5. チャンスは人生の中で幾度となくあるので、そのチャンスをつかまえる事。

捕まえる為には、前記に掲げた事を行う事。誰にでも可能性がある事、そして5年後、10年後の自分を思い描き行動してほしい。(何もしなければ、そのまま何も変わらない、ただ年をとるだけになる)

上記の様な事を話したが、後で後輩達の、私の講義を聞いてのレポートを見せてもらい、人によって話のどこに興味をもって聞いていたかが違うのがよく分った。(剣道の話の時の一点を見るだけでなく全体を見る様にと言った事、相手から信頼される事が大事である事等それぞれであった)

総じて、学生の本分に戻って勉学に励み、目的意識を持って行動しようとする感想をいただいて講師を引き受けた事に安堵している。



## キャリアデザインの 講義を終えて

泉 朋良氏  
(経済・経済 H4入)

### 【経 緯】

私が勤務する佐賀共栄銀行の先輩が佐賀大学キャリアセンターの就職支援に携わられているという縁があって、キャリアデザイン講座講師の依頼があった。私みたいな落第生が母校のために少しでも役に立てるならと思い、講師役を引き受けることにした。

### 【講義内容】

I. 自分と銀行(1.自己紹介、2.佐賀共栄銀行の概要、3.銀行業界の動向)

私の近況および人気業種である銀行の業界動向について説明した。

II. 社会に出るみなさんへ(1.求められる人材とは、2.キャリアデザイン)

「企業は自社に対して実績で貢献できる人を求める。」「企業の成長に対する実績が必要であり、企業は必ずしも社員の成長ばかりを求めているわけではない。」という実情を伝えた。その上で、企業が求めている人材は「考えて行動する人」「会社の成長と自分の成長のベクトルを合わせる人」であることについて説明した。

次に仕事におけるキャリアについて話した。キャリアを積み重ねるにあたって、節目ではキャリアをデザインする必要がある(5年に1回程度)が、普段は成り行きに任せて直向きに目の前の仕事に取り組んでほしい旨を伝えた。

### 【振り返り】

私もちょうど仕事における節目を迎えている状況であり、自分自身を振り返り、今後のキャリアを考える意味でよい経験となった。大学生が社会人になると理想と現実のギャップを感じると思うが、今回の講義がそのギャップを埋める足しになればと考えている。



# 退職にあたって

経済学部 長 安 六

昭和40年4月に佐賀大学文理学部に入学して以来、学部学生4年、研究生1年、教員生活42年と、いつの間にか47年が経過していました。半世紀近くも本庄キャンパスで過ごしたのかと思うと、今更ながら感慨深いものがあります。

私は、農村で育ったこともあり、高校時分から農業経済学を志しました。文理学部で農業経済のゼミを選び、花田仁伍先生という恩師に出会い、導かれるままに研究者の道を歩んできました。助手時代に先生のもとで手がけた多くの農家経済調査、ひとり立ちしてから始めた中山間地域の農業・農村調査や地域の経済調査を通じて、資本主義経済のベースにある非営利的な市場経済や、更にその下にある現物経済を意識するようになりました。

実はコミュニティ（生活世界）の経済である現物経済を豊かにすることが経済活動の目的で、それを可能にする為に非営利的な市場経済（今日でいうNPOの経済）や、営利的な資本主義経済があるのであり、後者は前者の手段であり、その逆ではないということです。

そう考えると、農業にも三つの経済に対応して、生活志向型、交流型、市場対応型という3つの型の農業があるということになります。これからの農業は政府が推進する市場対応型の企業的な農業よりもむしろ、農村を舞台に都市と農村との交流を中心にした非営利的な農業や、農を生活の一部にとり入れた自給的な農業へとシフトしていくと見ています。

3つの経済の視点は、地域の他の地場産業やまちづくりにも当て嵌めることができます。中心市街地を営利活動だけの場としてみるのでは

なく、非営利的な市民活動の空間として、そして何よりも、最も快適な生活空間として見直す必要があります。そう考えると、中心市街地の活性化は、先ず、商業ありきではなく、後二者をベースにした多機能型のまちづくりであることがわかります。私たちの地域経済研究センターではそのようなまちづくりを目指して平成14年10月に呉服元町にまちづくりサテライト「ゆつつら〜と館」を設置し、この間、地道な取り組みを行ってきました。

同窓会とのかかわりについては、いずれ、改めて書きたいと思いますが、助手になって間もない頃、和仁孝三先生に言われて兄貴分の江頭邦道さんと文理学部同窓会を手伝うようになったのが切っ掛けでした。いつの間にか二人が事務局を担当するようになり、経済、理工両学部を包括した楠葉同窓会づくりや、佐賀大学同窓会の組織化、理工学部同窓会の分離独立等に携わってきました。久原直行文理学部同窓会会長を始めとして多くの良き先輩方の下で人間としての勉強をさせていただきましたが、気がつけば、多くの先輩が同窓会活動の第一線を退かれ、経済学部卒業生への橋渡し役として、私たち17回生が同窓会を暫く引っ張る役回りとなりました。

定年退職という人生の節目を迎え、キャンパスを離れることになりましたが、これからは、地域に身を置きながら、これまで培った同窓生や地域の人々とのネットワークを活用して、佐賀の総合大学として、母校が地域に根付くように支援していきたいと思っています。

## 卒業生紹介



### 学生生活を 振り返って

経済学部経済システム課程4年  
みやざき いろいろ  
宮崎 一郎

学生生活を振り返ると「佐賀大学での4年間はあっという間に過ぎたなあ～」というのが今一番感じていることです。今から4年前、僕は兵庫から佐賀に来ました。佐賀大学に来た当初は大学の授業も新鮮だったし、初めての九州にわくわくしていました。しかし、1年次の後期ともなると大学生活にも慣れて授業に出たり出なかったり、「いつかは世界を相手にビジネスがしたい」という目標があったのに……。そんな頃に自分を熱くする出来事が起きました。それは所属していたテコンドー部で主将になる

ことでした。見た感じは気が弱そうですが、一応主将だったんですよ（笑）僕がクラブの主将になった当時、部員は実質2人で、「部」という名前は付いているが今にも消えてしまいそうなクラブだったと思います。主将になって常に頭にあったのは自分の代でクラブを潰してしまうのではないかという不安と絶対再生できるという根拠のない自信だけ。事実、1年目の新入部員の数はゼロ。でも、逃げ出そうとは思わなかったです。子供の頃の話ですが、僕の母親は習い事を途中で辞めることを許さない人だったので、その経験が活かされたと思います。また、コーチや監督、後に入部する後輩たちの支えもあってなんとかやってこれました。最後に、学部を代表して原稿を書かせていただけるまでに僕を育ててくれた両親、クラブ関係者、キャリアセンターの方々、そして佐賀大学に感謝します。4月から社会人!! 佐大を代表する人間になれるように、頑張っ来てますわ～（笑）

### 「リタイア後の地域生活を訪ねて」

佐賀市循誘公民館長 坂井 袈裟宜<sup>けさよし</sup> さん（文理・経 40入）

坂井さんは、子会社も含め約40年間の金融機関勤めの後、母親が待ち、奥さんの郷里でもある佐賀県に戻って来られました。初めはのんびりした生活に憧れたそうですが、生活が落ち着くにつれ、外に触れる生活が必要と気が付き、近くの公民館長公募に応募したそうです。

平成11年4月から現職に有りますが、コスト重視の最たる金融機関から住民の喜びを重視する今の仕事へ変わり、理想を追求できる仕事につけたと感慨深げでした。

今は、公民館の在る循誘地区の歴史を紹介

した、「新ふるさと循誘」の上梓に力を入れ、今後の公民館の自主講座等に役立てたいそうです。厳しい予算も、事業は企画次第と気にならない風でした。

抱負一杯の坂井さんですが、時には子どもさんが居る東京に出かけて、ついでに在京の、大学時代の社会心理学研究会「SPC」のメンバーと話をするのが楽しみとのこと。

佐賀県在の同窓生とも、何か社会還元の活動をやりたいと意欲的でした。

文責：釘本 勤（文理・法 40入）



図書室の坂井さん

### ～会員のみなさんの声をお聞かせください。～

佐賀大学楠葉同窓会では、会報「なんよう」の誌面充実のため会員のみなさんの声を募集いたします。趣味や職場紹介、近況報告や俳句など、また本誌へのご意見・ご要望、印象に残った記事や掲載してほしい事等々、添付しておりますハガキにて、どしどしご投稿ください。



投稿された会員の方へは、もれなくカッチーくんミニハンカチをプレゼント!!



# ゼミナールの紹介 第10回

羽石寛志ゼミ

羽石ゼミでは経営情報システムをテーマに学習しています。ツイッターやフェイスブックといったソーシャルメディアなど、情報通信技術を活用し効率的に学生生活を送ることをゼミの理念としています。3年次には各々が興味を持った本を読み、本の内容を踏まえて自分の考えを伝えるプレゼン発表を行ないます。これによりプレゼンテーション能力・ディスカッション能力・データ収集分析能力の向上を図っています。また、定期的に懇親会を開いてOB・OGとの交流も大切にしています。さらに、ソーシャルメディアを活用して積極的にコミュニケーションを取り、幅広い年代の方と広く人間関係を築くことで礼儀やマナーを学び、社会人としての一步を踏み出しています。



これからも常に様々なものに興味を持って何事にも真剣に全力で取り組み、先生や友達、先輩、自分などあらゆる人をHappyにすることを目標に今後のゼミにも取り組みたいと思います。

とくい すみこ  
土井 寿弥子

(経済学部経営・法律課程3年)

## 歌は流れる その61

老楠に芽吹く嫩葉が翠緑に萌え、城址の濠に湛えた水面を緑のそよ風が渡る。それに乗って激唱する「南に遠く振古より…」の歌声が街の中へ流れていった。平成12年5月10日、佐賀市内のホテルニューオータニで開いた佐高の80周年記念大会。

**代表的な寮歌** 「南に遠く」は昭和7年にできた佐高が誇る畢生の作で、代表的な寮歌だ。園田卯吉が作詞し宮本(後に丹治)注が作曲した。生駒萬治校長は「園田の奇才、宮本の楽才、ここに極まれり」と絶賛した。

もう一つの歌がある。開校二年目の大正11年、後に駐米大使になった1回生の武内龍次が作詞作曲した「暁近き野に出でて 光をまちて佇めば 深き大地のささやきに 懐疑の夢はさめにけり 高鳴る胸を抑へつつ新しき日を歌ふかな」(6節構成)(既掲載)だ。野趣横溢する佐賀野を背景に若人の心情を吐露し、高い旋律でうたい上げる。が、「南に遠く」とともに佐高の看板寮歌で、佐大になっても歌われる長寿の歌でもあった。

今回の「歌は流れる」最終編は、疾風怒濤に身を委ね韋駄天のごとく青春を駆け抜けた

園田を経糸に、人物や事象などを緯糸で紡ぎながら国家的な大事件を絡めて描く。

**特異な入試** 戦前佐高の入試には、文科に数学が、理科に漢文なしの時期があった。それまでの入試は文部省が所管して全科目出題。それを各校に任せただが、受験する文科志望の生徒は数学のないことに小躍りする。まさに天の配剤ともいべきか。佐高の文科には全国の数学音痴が蝟集し狭き門に。ほかに姫路高や高知高らがあった。

生駒校長は「数学ができないだけで門戸を閉ざすのはしのびえない。数学はできなくても国語や漢文に秀でた生徒がいるはずだ」。自説を喝破して、はばからなかった。

**アンバランスな秀才** 待ってましたと入ってきた生徒が多くいた。園田、宮本のほか入江徳郎、山下雄ら。一芸に秀でたアンバランスな秀才の彼らは、4人で寮歌や記念祭歌など14本をつくる。文人肌で梁山泊をなし、寮にたむろして寮生活は活気に満ち。雄勁にして素朴、抜山蓋世、衝天の意気、「南に遠く」は佐高中期以降にメガトレンド(大きな流れ)を構築していく。(敬称略) 大谷 希幸(30卒・法)

## 山崎 武顧問を偲ぶ

山崎氏  
中央



同窓会創立構想の頃からご参加いただき、特に関係筋との交渉や他団体の調査などでは随分動いていただきました。

その山崎武氏が昨年11月20日肺炎のためご逝去されました。

享年82歳でした。ここに謹んで報告し山崎氏のご冥福を祈ります。

顧みれば60年になります。地元会社が初めて佐賀大学卒業生を採用されたのに応募して出勤した時に会ったのが小生と山崎君です。ざっくばらんの二人は忽ち仲良くなり新職場で仕事に励みました。

よく居酒屋にも通いました。親に話せぬ事も相談し議論もしました。その頃将来の奥様

と約束があるからと県庁前のバス停で待ったこともありました。その反対の事もありました。二人とも独身男子で澆刺としていました。兄弟の様に行動するので山崎君の事はいつも「あの紳士はまだかい？」とか「あの紳士がもうじき来るから」と言っておけば誰にも通じました。立つ、歩く、座る時背筋をつんと伸ばした山崎君の姿は抜群に静かで品のいい姿でした。まさに「紳士」で通じました。

その頃の同窓会は恩師を囲む会でした。ゼミ単位の集会のためどうしても閉鎖的でした。この不便さを改善するために全学卒業生が一堂に会したいと誰もが念じていました。

怒鳴り声を聞かぬ品のいい山崎君でしたが、この同窓会統一の活動にはよく動いてくれました。

松の芯を見て作った小生の拙句に「松の芯己一つの天を指し」がありその句の真線的激しさを賞めてくれました。恐らく身の内に秘めた激しさがあつたのではないかと思います。

今頃は天の一点を指して行く山崎君が見える様です。

関本 優(文理・経 29入)

## 事務局日誌 ( 印は楠葉同窓会 )

- H23 .11 .1 会報「なんよう 95」発行
- 2 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 松永栄司 氏(文教学部卒)
- 4 佐大同窓会会報「楠の葉」16編集会議
- 7 名簿担当者会議
- 9 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 林志 氏(文教学部卒)
- 10 会長・副会長会議
- 16 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 斉藤泰志 氏(理工学部卒)
- 17 役員会
- 19 第19回佐賀県青春寮歌祭 / エスプラッツホール
- 19 佐大同窓会「山口支部総会懇親会」 / 国際ホテル宇部
- 20 有朋会追悼会・総会懇親会 / グランデはがくれ
- 26 佐大同窓会「東海支部総会懇親会」 / 名鉄ニューグランドホテル
- 30 「経済学部と楠葉同窓会との意見交換会」 / ホテルニューオータニ佐賀
- 30 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 泉 朋良 氏(経済学部卒)
- 30 佐大同窓会と就職内定者との懇談会 / 大学会館
- 12 .7 単位提供講座キャリアデザイン / 在学生
- 14 単位提供講座キャリアデザイン / 講師

- 枝国源一郎 氏(佐賀医科大卒)
- 15 佐大同窓会「代表役員会」・「佛淵学長を囲む会」 / 佐嘉神社記念館
- 21 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 永淵美樹 氏(佐賀医科大卒)
- H24 .1 .1 佐大同窓会会報「楠の葉」16発行
- 11 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 島田達生 氏(農学部卒)
- 12 佐大同窓会「第7回代表役員会」
- 18 単位提供講座キャリアデザイン / 講師 陣内章主 氏(農学部卒)
- 18 役員会・新年会 / 楊柳亭
- 25 単位提供講座キャリアデザイン講座反省会
- 29 佐大同窓会「鹿児島支部総会・懇親会」 / ホテルレクストン鹿児島
- 2 .3 佐大同窓会「沖縄支部総会懇親会」 / 天久テラス
- 3 佐大同窓会と各学部後援会担当者との打ち合わせ
- 9 佐大同窓会「第8回代表役員会」と学習会
- 10 会報「なんよう 96」編集会議
- 16 役員会
- 3 .8 佐大同窓会「第9回代表役員会」
- 21 役員会
- 23 佐賀大学平成23年度学位記授与式

発行 佐賀大学楠葉同窓会  
佐賀市本庄町 佐賀大学菱の実会館内  
TEL 0952 - 23 - 1253  
FAX 0952 - 25 - 5700  
E-Mail: dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp

発行者 石丸 新(40入・法)  
編集 松尾和俊(58入・経)  
代表者  
郵便振替 [ 01760 - 9 - 25635 ]